

城取博幸の

山口県光市のスーパーマーケット見聞録

NO 134

2020年12月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

山口県光市

萩から広島に移動して、翌日友人の運転で光市に向かう

山口県光市「伊藤博文記念公園」



伊藤博文像



左手に持っているのは明治憲法だろう



伊藤博文について

1857年、松下村塾に入り吉田松陰に学ぶ

1867年、伊藤博文と名乗る

1868年、兵庫県知事となる

1885年、初代内閣総理大臣となる

1909年、ハルピン駅にて凶弾に倒れる



ちなみに、1866年に「徳川家茂(いえもち)」、翌年1867年に攘夷を強く主張した「孝明天皇」が亡くなって時代は大きく変わった

戊辰戦争(1868年～1869年)は、明治天皇と徳川慶喜の時代である

記念碑

左側の石が不自然

何かあるのか



説明文



資料館



第二奇兵隊とは
かつて光市には第二奇兵隊の訓練所があった



内部は撮影禁止
伊藤が使った豪華な家具類が置かれている



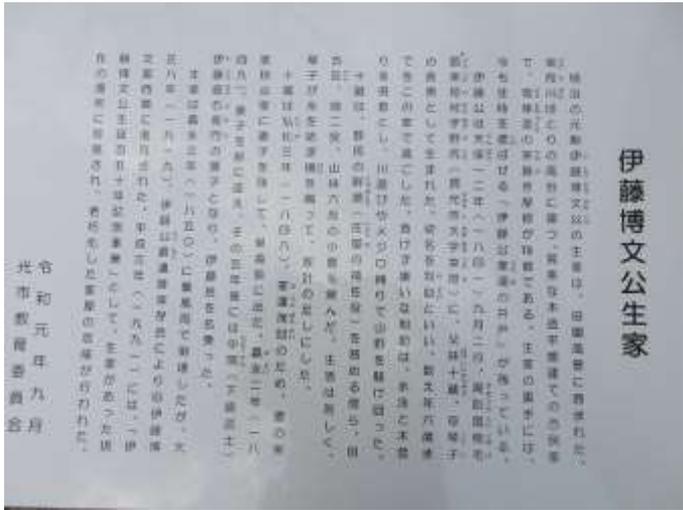
資料館の隣の伊藤博文の生家



1841年、周防国熊毛野尻（現光市大字東荷）に、父は林十蔵、母琴子の長男として生まれる
幼名は「林利助」 数えで6歳までこの家で過ごした
十蔵は庄屋の補佐役として、田5反、畑2反、山林6反の小農を営んでいたが、生活は苦しかった

1846年、家運挽回のため、単身萩に出て、5年後には下級武士「伊藤直右衛門」の養子となり、
伊藤姓を名乗る 1850年に暴風雨で倒壊したが1991年ここに移築された

*「庄屋の補佐役」と書かれているが、言い換えれば「小作」ではないかと思う



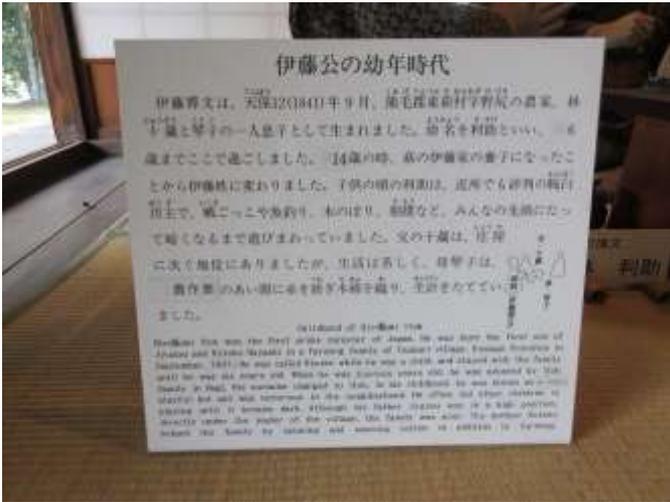
伊藤博文生家の復元



表札



14歳で萩伊藤家の養子となった



土間はあるが、馬小屋はない



復元されたかまど



蠟人形

御座が敷いてあるが下は板の間 典型的な農家のつくり



現在の2LDK 農家としてはかなり小さな家



奥座敷 中央にこたつの堀り外廊下はない



石碑



復元された井戸



産湯の水



周りの風景



実はここを訪れる前に3冊のぶ厚い本を読んだ

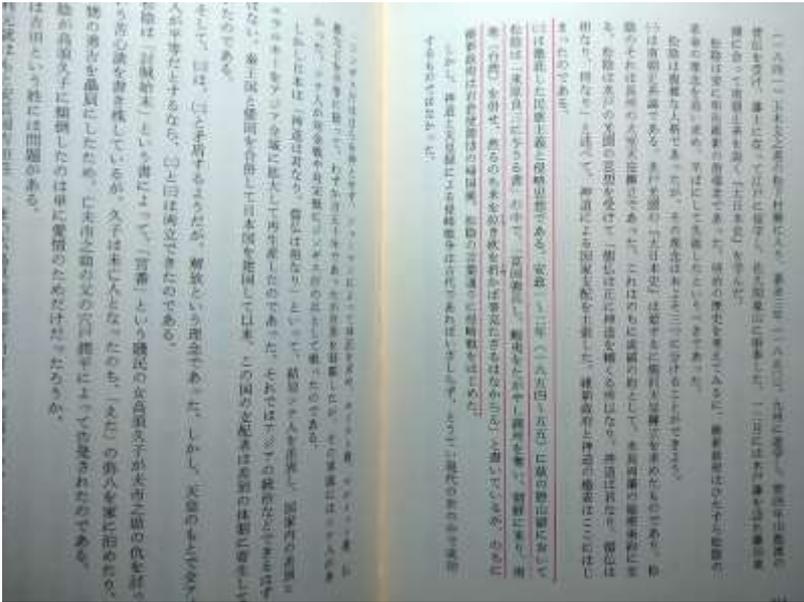


ショッキングなページが

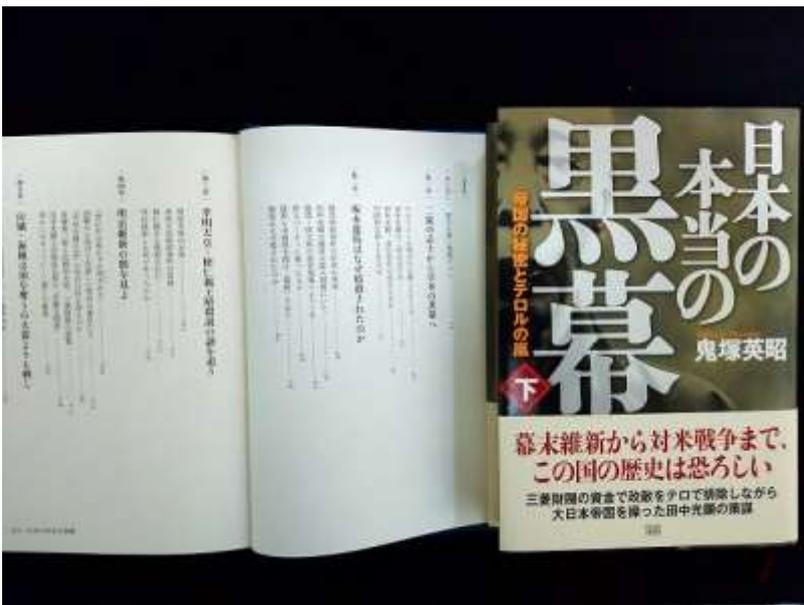
1854年～1855年、「吉田松陰」萩の野山獄において「来原良三（長州藩士）に与うる書」の中で『富国強兵し、攘夷をたがやし満州を奪い、朝鮮に來たり、南地（台湾）を併せ、然るのち米を拉（くじ）き、歐を折（くだ）かば事克たざるはなからん』と書かれているが、維新政府は岩倉使節団の帰国後、松陰の言葉通りに侵略戦をはじめた。』

* 日本を守るための考えであると思われるが、弟子たちは日清、日露、大東亜戦争まで忠実に実行した

日本は負けたが、日本は残った



興味のある方は読んでみたらどうでしょう
「幕末維新から対米戦争まで、」



「向山文庫」に向かう
資料館のスタッフに聞くと「橋は通れないという」
少し距離はあるが車を止め歩いて向かう



左に廃墟が見えてきた



今はこんな状態だ
何か気持ち悪い気が出ている



ここが向山文庫



難波たん庵(1811年～1888年)によって建てられた光市最初の図書館
難波氏は備中清水氏の末裔



難波作之進(1865年～1925年)

山口県8区から出馬し衆議院議員に当選

4男の「虎ノ門事件(虎ノ門にて裕仁親王を狙撃)」の責任を取り辞職

犯行に使われたステッキ銃

伊藤博文がロンドンで2本購入したものを、作之進にプレゼントしたものという説もある

責任を取り自宅のすべての戸を針金でくり食を絶ち餓死

向山文庫の中はこんな状態

あまり気持ちいいところではないので早々に引き上げる



難波作之進の選挙地盤は「松岡洋右(ようすけ)」に引き継がれる

その後、田布施町の岸信介、佐藤栄作、安倍晋三(長門市)と山口は多くの総理大臣を出している

車で走れば、「岸信夫議員」のポスター



本に書かれていた噂のあの人の生家付近に向かう
原野になっている



光市のファーマーズマーケット「里の厨(くりや)」

山口県光市東荷 2391-19



レストランで腹ごしらえ



店頭の弁当 丁寧に作られていて、陳列もキレイだ



周防大島のみかん鍋



メニュー



待メニュー「ちどり足カレー 1200 円」
 価値があれば客は 1200 円は出してくれる



ちどり足カレーを注文

山口県岩国市「いろり山賊」の山賊焼、山賊むすび、山賊うどんは有名
若鶏に串を刺し炭火でこんがり焼いたもの

揚げ野菜とサラダ付き



串に刺された骨付き鶏もも肉のグリル



焦げ具合も丁度いい

串に刺されているためナイフ、フォークはいらない



フワッと柔らかい
焦げた臭いも味の内



骨の部分はうっすらとピンク色
煮込みではなく、ちゃんと焼かれていることが分かる



キレイにいただきました
最後は手を使うことになる



ファーマーズマーケットの直売所



萩のスーパー丸久で売られていた光バナナ



食べごろガイド



ハヤト瓜(センナリウリ)

サラダや和え物、炒め物、漬物などに使われる



魚売場



肉売場



にぎり寿司売場



寿司弁当売場



ちらし寿司、助六寿司



あん餅



洋菓子売場



これは？ 右はカンロ飴 3000 個を使ったもの



カンロ飴1kg

本社は東京だが光市にはカンロ飴のひかり工場がある
製造所は光市になっている 醤油が隠し味で使われている



パン屋



冷しパンコッペは周防大島の名物らしい パンも差別化の時代



おいしそうだが食事済ませたため食べられない



小さなパンコッペを2個買ってみる 冷チルのような



さかきとしきみ売場



第2 奇兵隊本陣跡と石城山へと向かう

奇兵隊は高杉晋作が萩で創設した藩士、庶民からなる混成部隊

武士の集団ではないため混乱もあった

石城山とは ここはおもしろいところだ

[光市「第二奇兵隊本陣跡」と「石城山神籠岩\(いわきさんこうごいし\)」](#)

2021-01-28 16:53:54

第二奇兵隊本陣跡と石城山神籠岩

ここは一度来たかった場所だ

今日は少しマニアックなブログです

興味のある方だけ読んでください



石城山の頂上は平らになっていて、奥はキャンプ場になっている

ここは駐車場



神護寺



神護寺仁王門



この辺が第二奇兵隊本陣跡



第二奇兵隊本陣跡

1865年3月3日、室積の普賢寺に本陣を置く奇兵隊は、本格的な訓練が可能な石城山の神護寺に本陣を移転した

隊士は400人を超えており、転陣後、本陣である神護寺周辺の設備整備に着手した
兵舎、病舎などが新設され、約40頭の馬が飼育されていた

同年4月南奇兵隊は長州藩から正規の諸隊として公認されて「第二奇兵隊」と改称し、隊士は定員100名(後に125名)とされた

1866年5月5日、第二奇兵隊の本陣は泉福寺(現田布施町)に移り、石城山での役割は終焉を迎えた



この石碑は



「第二奇兵隊志士をおもう」碑
岸信介氏が詠まれた七言絶句



1865年、3月3日 石城山に第二奇兵隊本陣を移す
誰がここに駐留していたかは一切書かれていないが、
伊藤博文の生家の近くであるため伊藤が関わっていたに違いないと思う

当時の歴史を再確認

- 1866年、8月29日 徳川家茂大阪城で死亡
- 1867年、1月10日 徳川慶喜征夷大將軍になる
- 1867年、1月30日 孝明天皇逝去
- 1868年、1月27日～1869年6月27日 戊辰戦争
- 1868年、8月27日 京都御所にて明治天皇即位礼 9月20日に京都を出発
- 1868年、10月13日 東京[〓]奠都(てんと) 明治天皇が江戸城に到着
- 1869年、東京遷都(せんと) 政府が東京に移された

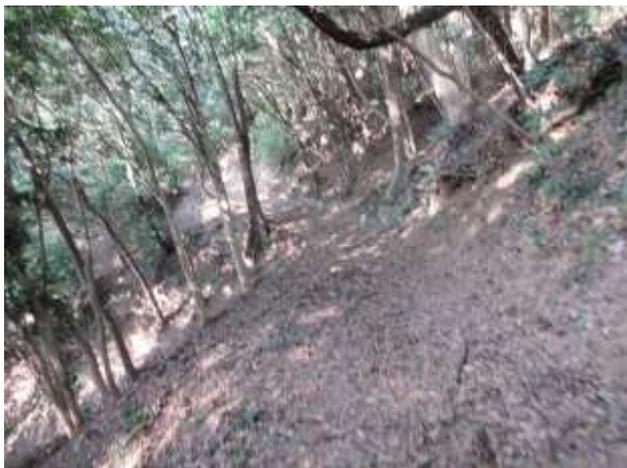
第二奇兵隊本陣から神籠石遺跡に進む



枯草で坂道を滑り落ちる

これ以上進むと危険であるため引き返す

このルートは勧められない



山からの景色



キャンプ場の奥の下り坂を進むと

こんな門跡のようなものが
古いものなので土砂が堆積している



明らかに加工された石
基礎に使っていた石のようにも見える



門の反対側は急な斜面



国指定文化財「石城山神籠石(いわきさんこうごいし)」

神籠石とは、巨石を一系列の帯状に並べて、

山の中腹から八合目あたりを鉢巻状に取り囲んでいる

古代の大土木工事の遺跡につけられた名称である

九州にしか存在しないとされていた大遺跡が本州でも発見されたので、考古学界の注目されることとなった

何の目的で構築されたかについては、長く定説がなく「神城説」「山城説」がある

* 朝鮮式山城という説もある



道に沿って石垣が続く

たぶん道はもっと下だったのでは

最高峰は 362m、最下位は北水門で標高 268m

取り囲む列石の総延長は 2533.54m

かなり大規模が土木工事であったが分かる



丁寧に石が積まれている



途中の龍岩石



いのししの足跡か
かなり大きい



「水門」が見えてきた
ここは城跡ではない
水門だけでもこれだけ大げさな工事がされていた
まだ山頂の発掘はされていない



草が刈られキレイに整備されている



水路跡



ここから水が流れる水路



手前は土を掘り起こしたような跡
たぶんいのしいが水を飲みに来ている
まだ新しい 長居は無用



これが古代の石垣



説明文にもあったように、石の形をある程度揃えて帯状に積んでいる日本の石垣は「ジグソーパズル」のような積み方だが、ここは「レンガ積み」のようだ



「万里に長城」もレンガ積み方式
「ソウルの南大門」もレンガ積み方式
「沖縄のグスク」もレンガ積み方式
ここは沖縄グスクの石積みによく似ている
誰が何時つくったのか？



いのししが怖いため早々に撤退
途中の散った椿の花



車で下山しようとする



登り口を発見
ここも石が積まれて整備されている



これはどうみても古代山城だ

「田布施と朝鮮との関係が深い」と多くの人が出ているがそれは断片的

「日本と朝鮮」の研究だけでなく、「中央アジア、中国、朝鮮と日本」の歴史を幅広く調べる必要ある

日本の教科書はそれを教えていない

グーグルで地図を見ていると 田布施に「百済部」の文字を発見

やはりここは朝鮮の影響を受けているのか？



日本は多民族国家である

「渡来人」についてネットで調べると



渡来人の歴史

ルーツは西安

「秦の始皇帝(紀元前 259 年～210 年)」

中国の初代皇帝 貨幣や計量単位の統一 万里の長城や兵馬俑(始皇帝陵)を建設

「徐福(じょふく)」

「東方三神山に長生不老の霊薬あり」と始皇帝の命を受け

紀元前 200 年ごろ 3000 人の童男童女と百工(多くの技術者)を従え、財宝、財産、五穀の種を持って来日

三神山には至らず、広い平野と湿地を得て王になり、秦には戻らなかった

「弓月君(ゆづきのきみ)」

「日本書紀」に記述された、秦氏に先祖とされる渡来人

秦氏は始皇帝の末裔とされている

応神天皇(古墳時代 4 世紀～5 世紀)の時代に、新羅の妨害を受けながらも、弓月君の民が渡来した

養蚕や絹織物を伝えた

「秦河勝(はたのかわかつ)」

古墳時代～飛鳥時代

秦河勝は秦氏の族長的な人物であり、聖徳太子(574 年～622 年)に強く影響を与えた人物

京都太秦(うずまさ)の広隆寺は秦河勝が建てた秦氏の氏寺

「白村江(はくすきのえ)の戦い」

中大兄皇子(後の天智天皇)は百済を救うため援軍を派遣した

663年10月、戦いは「白村江」で、倭国、百済の連合軍と、唐、新羅連合軍との戦争が起きた
戦いに大敗した倭国水軍は、亡命を望む百済遺民(位の高い人や技術者)を船に乗せ帰国した
唐や新羅が倭国に攻め入ることはなかったが、その後防衛施設を建築した

* 百済の人々の監修のもと築かれたのが「古代山城」と言われている

秦の始皇帝とはだれか

漢字から、「始めの白い王(白人)の帝」

目はブルーであったとも言われている

ユダヤ人であったとも言われている

中央アジアからシルクドローンを通りやってきた

シルクドローンの終着点は倭国(日本)

「約束の地」だ

今回は「回天基地資料館」をレポートします

AD

田布施の続き

山口県光市田布施の「平生回天資料館」

海軍の特攻基地だ



回天実物大のレプリカ



スクリュー部分



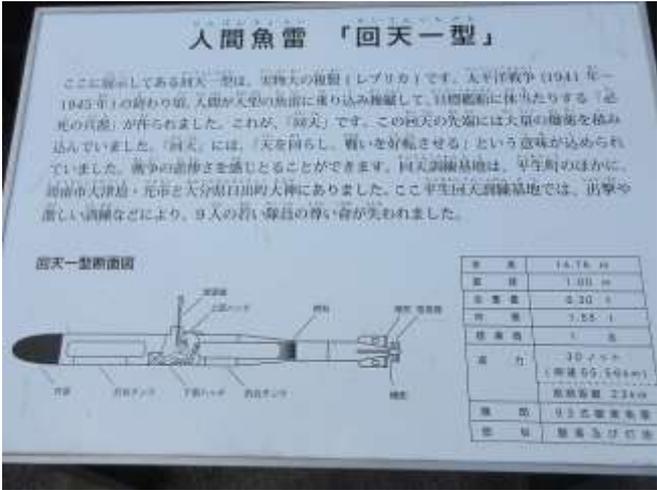
人間魚雷「回天一型」

太平洋戦争(1941年～1954年)

人間が魚雷に乗って操縦して、目標艦隊に体当たりする「必死の兵器」がつけられた

「回天」には、「天を回らし、戦いを好転させる」という意味

ここでは9人の尊い若い命が失われた



回天を運んだキャリアー



前の海



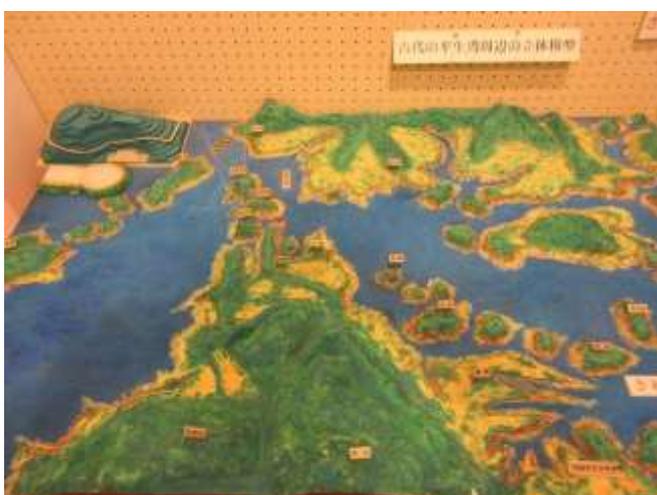
館内



年表



古代の平生湾周辺の立体模型



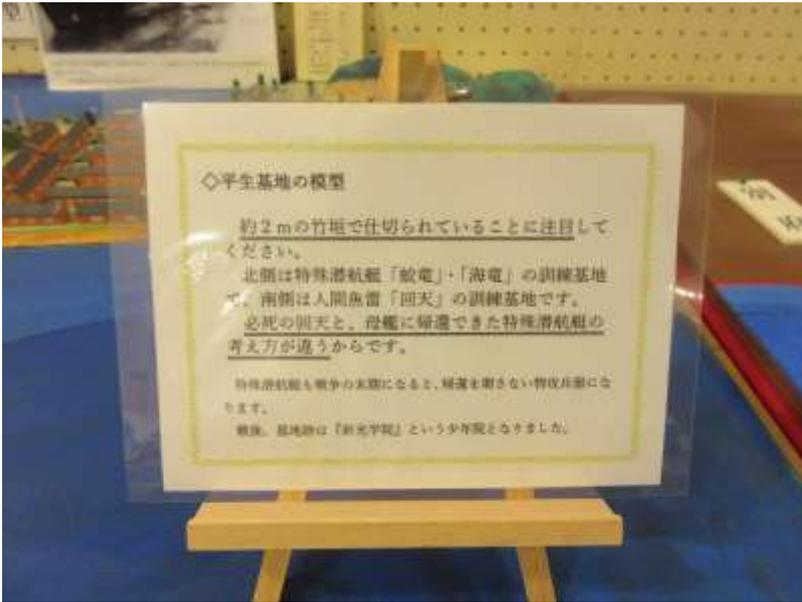
ここにも「百済部」の表示が見られる



阿多田半島海軍基地立体模型



中央を2mの竹垣で区切られていた
よく見ると、北側は特殊潜航艇訓練基地
南側は人間魚雷回天の訓練基地
戦争末期には特殊潜航艇も帰還できない特攻兵器となった



奥が回天一型

手前が特殊潜航艇

先端に2基の魚雷発射口がある

ハワイ真珠湾、シドニー湾に潜入攻撃した



イ370潜水艦の上に回天5隻を搭載していた



亡くなられた 9 人の写真



米重巡「インディアナポリス」一瞬の暗転

インディアナポリスは 45 年原爆を運搬するという機密作戦に従事し、その任務を終えて次なる作戦に向かう途中

日本の伊 58 潜水艦の魚撃により運命の最期を遂げた

マンハッタン計画

1945 年 7 月、原爆投下用に改造された B29 はテニアン島に待機していた

インディアナポリスは 7 月 16 日朝 8 時、原爆 2 個を搭載して金門橋をくぐり太平洋を出てテニアン島に向かった

任務を終えた後、日本の伊58潜水艦のレーダーが目標をとらえ、6発の魚雷を発射、その内3発がインディアナポリスに命中し沈没
インディアナポリスの犠牲者は930名と言われている



近くの記念碑



特別攻撃隊 人間魚雷「回天碑」



近くには



古代女王の像「神花山古墳入口」



こんな道を進む



海が見えてくる



像の後ろ姿



台座と像の年代が違う

たぶん作り変えられたと思う



古代之女王像

あまりよく見えないが像は東を向いていると書かれている



この壺の形は？



白鳥古墳

古墳時代の中頃(5世紀)に造られたと考えられる県内最大の「前方後円墳」

古墳の大きさは長さ120m、後円部径64m、高さ8m、前方部幅約62m

後円部墳丘には白鳥神社が祀られている



ここまでにしておく



下関～萩～光市～田布施

「高杉晋作」「吉田松陰」「伊藤博文」の研究はこれで終わり

次回は薩摩の「西郷隆盛」の研究だ

田布施を後にして広島に戻る